

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4071602496
法人名	有限会社 モク・コーポレーション
事業所名	グループホーム 銀の庵
所在地 (電話番号)	福岡県久留米市北野町今山1104-1 (電 話) 0942-78-0378
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成 19年 10月 12日

【情報提供票より】(平成19年9月20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	15 人	常勤	4人, 非常勤	11人, 常勤換算	8.6人

(2)建物概要

建物形態	併設/ (単独)	(新築) /改築
建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円		その他の経費	有
敷 金	有(円)			無
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,130 円			

(4)利用者の概要(19月09日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	蒲池医院・田中内科医院・石田医院・ともぞえ歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は、ヘルパーステーションやデイサービス、自主事業の宿泊サービスを運営していく中で、泊まれる施設を作ってほしいとの家族等の希望に応え、グループホームを開設する。歯科衛生士、理学療法士などの専門職を配置し、利用者の日常生活動作の改善に心がけている。車椅子の利用者が移乗しやすいソファや椅子も設置されている。また、個々の利用者に合ったリハビリメニューを作成し毎日実施している。隣接した民家の庭には、利用者が窓から眺めたり、また、散歩時に楽しめるようにと花を植えたり、野菜等を植えられている。畑で栽培した野菜を頂くこともあり、地域住民との親交がある。食事時の訪問者へのサービスとして、常に常備菜を準備するなど行き届いたサービスを行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けてアセスメントにセンター方式を取り入れ、利用者一人ひとりの楽しみ、生きがいなどを念頭に置きながら日々の生活を支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価においては、管理者、介護支援専門員で記入し全職員に意見を求め作成している。その際、グループホームでのケア、権利擁護やターミナルのことを学ぶ機会になっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。地域包括支援センター、老人会会長、副会長、区長、民生委員、家族会の参加で開催している。利用者の状況や参加者相互の意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。5月には避難訓練にも参加していただき地域住民との連携を深めることが出来た。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	面会時に、意見や不満などを聞くようにしている。また運営推進会議の場を利用し、家族の意見を聞き改善に役立てている。ホームの前の溝の対応についての意見が出されたので、外出時はマンツーマンの対応でリスクを回避するようにしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、地域の行事や総会には必ず出席している。草取りやお祭りには利用者と一緒に参加することで地域との交流に努めている。野菜や花を頂いたお返しに手作りのおやつをおすそ分けするなど馴染みの関係が出来ている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根ざした福祉、その人らしく生きるための支援、自立支援、老後をゆたかに幸せに過ごしていただく」を理念に掲げ、利用者が健康で楽しく暮らせるよう地域や家族との関係作りを日々大切に支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をスタッフルームやリビング等に掲示している。会議や日々の生活の中で再確認し、実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事や総会には必ず出席している。草取りやお祭りには利用者と一緒に参加することで地域との交流に努めている。野菜や花を頂いたお返しに手作りのおやつをおすそ分けするなど馴染みの関係が出来ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、アセスメントにセンター方式を取り入れている。今回の自己評価においては、管理者、介護支援専門員で記入し全職員に意見を求め作成している。その際、グループホームでのケア、権利擁護やターミナルのことを学ぶ機会になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。地域包括支援センター、老人会会長・副会長、区長、民生委員、家族会の参加を得て開催している。利用者の状況や参加者相互の意見交換を行い、サービス向上に取り組んでいる。5月には避難訓練にも参加していただき地域住民との連携を深めることが出来た。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の議事録を提出し、ホームの現状を伝えている。介護保険の各種サービスや生活保護関係など地域の方から相談を受けたときなど、市役所に相談に出かけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在利用者はいない。管理者、職員は各自で勉強会などに参加しているが、制度についての理解はまだ十分とはいえない。	○	対応が必要と思われる利用者がある場合、または家族から質問があった時など、「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について情報提供が出来るよう研修会や勉強会にて周知徹底してほしい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書と一緒に、利用者の生活状況、金銭管理、行事等について郵送にて報告をしている。また、受診の報告や緊急連絡が必要な時には、随時電話などで報告がなされている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、意見や不満などを聞くようにしている。また運営推進会議の場を利用し、家族の意見を聞き改善に役立てている。ホーム前の溝にふたがないので心配との意見が出されたので、外出時はマンツーマンの対応でリスクを回避するようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新入職員が入った場合には、数ヶ月日勤のみ行い利用者と馴染みの関係が出来たところで、夜勤についてもらう。夜勤も2回は管理者と一緒にいき、利用者へのダメージの軽減を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	30代から60代(男性1名)までの職員を採用している。歯科衛生士、理学療法士も勤務している。惣菜屋で働いていた方は、手作りのパンやケーキ、季節のジャムなどを作り、手芸が得意な方は、ホームの壁面を飾るタペストリーや利用者のエプロンなどを作ってくれる。個々の趣味や能力を発揮できる場が与えられ、生き生きと働いている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内での会議等を利用して、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。言葉遣いや穏やかな対応を心がけ尊敬の念をこめたケアを行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内が届いたら全職員へ提示し、研修の参加を促している。年2回以上の研修を義務付けし、ミーティングや勉強会において伝達している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。発足したばかりで現在までに2回の研修等が企画され参加しているが、意見交換までには至っていない。	○	グループホーム協議会等の研修を機に、参加者相互間の交流を深めてサービスの向上に取り組まれることが望まれる。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人のデイサービスを長年利用されている方の入居が多く、職員やケアの方針等十分理解された上での入居になっている。入居前に体験入居していただき、ホームに馴染んでもらい本人や家族が納得し安心してサービスの利用が出来ている。		
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に過ごし喜怒哀楽を共感する中で、感謝の言葉、気遣う心など日々の生活の中で教えていただき支え合う関係が築けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や日々の暮らしの中で、本人や家族より話を聞き、全職員でセンター方式を活用して、その人の楽しみ、生きがいなど利用者のニーズを把握している。把握が困難な利用者は、表情や仕草などで本人の思いや希望を汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントに基づき家族の意見や希望が十分に反映されるようケアプランを作成している。職員会議や毎朝のミーティングにおいて、個々のケアプランの周知、徹底を行っている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	骨折で入院後ホームに帰って来られた時は、学習会を行い介護計画の見直しをし、屈伸運動や日常生活リハビリを行っていく中で、自転車こぎや立位が出来るようになれる。大きな変化がない利用者に於いても、職員会議等で意見を出し合い3ヵ月に1回の見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人のディサービス利用者との交流や行事などに参加している。毎週帰宅される方の為の外泊の支援、家族が宿泊する為の支援、入院・受診時の支援などを希望に応じて行なっている。また、食事の時に来られた方には食事のサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医に受診し、職員が付き添う事も多く受診結果は随時家族に報告している。また定期往診以外にも医師が立ち寄り、気軽に利用者や職員の相談にのってくれている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ターミナルの利用者はいないが、家族とは随時話し合っている。重度化した場合は、本人や家族の意向を確認し医療との連携を図りながらその都度方針を共有していく。ターミナルケアについて勉強会など重ねて、事業所全体として体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常生活の中で利用者の方にやさしい声で接し、トイレへの誘導や失禁の際も、耳元で呼びかけるなど配慮し、さりげなく支援している。又、記録物は事務所などに置き記録、管理して個人情報の保護に努めている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間(4時～9時)や就寝時間(6時～10時)は、本人のペースや状態に合わせて対応している。朝ごはんは、起きてこられた時に随時食べて頂いている。居室の仏壇に花や供物をしたり、散歩、買い物など一人一人の希望に添ったケアを行っている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域の方から散歩の途中で頂いた野菜などを、一緒に下ごしらえしたり、お気に入りのエプロンをつけて職員とともに調理の手伝いや後片付けをしたり、それぞれの得意分野を活かしている。糖尿の方は、医師と相談し利用者の気持ちに配慮しながら、糖分や主食を減らすなどして食事を楽しんで頂ける様に支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後から来客や外出が多いので、基本的には午前中の入浴となっているが、毎日入浴を希望される方や、拒否される方もあり、その都度希望や心身の状態に応じて対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	折り紙を一緒に折る、お話を披露してもらう、歌のリーダーになってもらう、料理や繕い物を教えてもらうなど得意な分野を発揮できるよう支援している。また、洗濯物干しやたたみなど職員とともに行い、自分の役割を実感されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとのドライブや買い物、中庭で花を摘んだり朝夕の散歩を楽しむなど日常的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関への出入り口のドアにベルを取り付け、開いたときはすぐに職員が気が付くように工夫している。裸足で外に出られる利用者が1名入居中で、ホームの前に溝があり一人で出て行かれたら危険なので、入浴介助などで2人対応で支援する場合は施錠している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	定期的に防災訓練を行い避難場所や避難経路などを把握している。5月には消防署や地域の方々と共に避難訓練を行っている。ホームの隣が区長さん宅なので、緊急時は何時でも応援に駆けつけると言ってくれるなど協力体制が出来ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は、無農薬、無添加の物を使用し、栄養のバランスなどにも注意している。介護の経過記録表の中に、食事摂取量、水分量の記録があり全職員が把握出来ている。不足しがちな水分を補うために毎食に汁物をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花や稲穂のタペストリーがあり、利用者がゆったりとくつろげるソファなどを配置している。居室内も観葉植物を置き、消臭剤の代わりにアロマオイルを使用されている。玄関や庭には、季節の野菜や花などを植えて生活を楽しまれている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、和室、洋室があり利用者が選択できるようになっている。使い慣れたタンスや三面鏡などの家財を配置して、写真や趣味のお茶の道具、手芸等を飾り、利用者が落ち着いて過ごせるような工夫をしている。		